

水文学 I (Hydrology- I)



担当：近藤昭彦（環境リモートセンシング領域）

ハイブリッド講義を行います

講義資料の置き場所

<http://dbx.cr.chiba-u.jp/>
左フレームの・講義・ゼミ・勉強から水文学 I を探す

<http://dbx.cr.chiba-u.jp/edu/lec/hydrology/>
ダイレクトリンク

役に立つ水文学!



講義予定

- 第1話：水文学の体系：地球上の水の分布・循環・変動
- 第2話：地表面における水とエネルギーの分配
- 第3話：土壌水
- 第4話：地下水
- 第5話：河川水文学
- 第6話：水流発生機構
- 第7話：森林の機能
- 第8話：同位体水文学
- 第9話：特定地域の水文学Ⅰ：乾燥地の水文学
- 第10話：特定地域の水文学Ⅱ：湿潤地帯の水文学
- 第11話：水に関わる環境問題Ⅰ
- 第12話：水に関わる環境問題Ⅱ
- 第13話：水に関わる災害Ⅰ：洪水
- 第14話：水に関わる災害Ⅱ：土砂災害

水文学の対象は
一体何なのだろう



水文学 (Hydrology) とは (榎根、1980)

水循環・水文循環(hydrologic cycle)を中心概念とする学問分野

狭義の水文学

- 一陸地の水のあり方、循環、分布、特質を自然科学的に研究する学問分野
- 一(目的)自然界における水循環を水量と水質の両側面について時間的ならびに空間的に定量化すること
- 一(具体的課題)問題とする水循環システムに関して、貯留量、流入・流出量、滞留時間、水収支、および物質収支を明らかにすること

広義の水文学

- 一水循環の定量的情報に基づいて、自然界の水循環システムへ治水・利水システムを無理なくはめ込むこと

言葉としては大正時代からあったが、学として成り立つまでには歴史的経緯があった。



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



International
Hydrological
Programme

UNESCO(1964)の定義 →1965年よりIHD開始

“Hydrology is the science which deals with the waters of the earth, their occurrence, circulation and distribution on the planet, their physical and chemical properties and **their interactions with the physical and biological environment, including their response to human activity.**”

Hydrology is a field which covers the entire history of the cycle of water on the earth.”

水文学は水循環を中心概念とする学問分野であるが、さらにその範囲を広げ、水の循環、分布、特質を自然科学的に研究するだけでなく、水資源の開発、水の適正利用、水と環境との関係、水文環境の管理など**人間と水との関わり**に関する研究をも包含する、水に関する**総合科学**との立場を取るまでに至っている。(池淵ほか「水文学」、朝倉書店,2006)

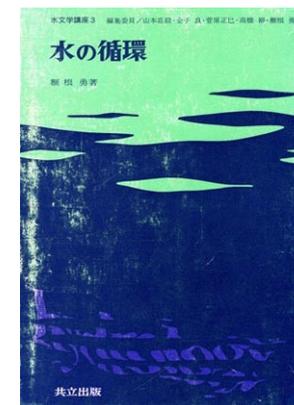
学際科学としての水文学—「水文学講座」共立出版より

1. 水文学総論
2. 図説水文学
3. 水の循環
4. 水文統計
5. 河川営力論
6. 地下水水文学
7. 流出解析法
8. 確率水文
9. 汚染水質機構
10. 水温論
11. 河川水文学
12. 農業水文学
13. 森林水文学
14. 陸水生態学
15. 水法論

(1970年代の出版)



水文学としての
フレームワーク
の確立



水文学が関わる分野

- ・ 理学
 - 地理学、地球物理学、気象・気候学
 - その他
- ・ 工学
 - 土木、衛生工学、建築、都市計画
 - その他
- ・ 農学
 - 農業土木（農村工学）、灌漑・排水、農村計画、その他
- ・ 人文社会系
 - 環境社会学、法学、人文地理学、その他
- ・ その他

水文学 榎根勇(1980)

序文

1 水文学とは

- 1.1 水文学の定義
- 1.2 水文学の歴史
- 1.3 水文学の分類
- 1.4 水循環
- 1.5 水の滞留時間

2 地球規模の水循環

- 2.1 水循環とエネルギー収支
- 2.2 地球上の水の量
- 2.3 世界の水収支
- 2.4 第四紀古水文学
- 2.5 地球の熱収支とエントロピー収支

3 地表面における水とエネルギーの分配

- 3.1 地表面への入力
- 3.2 接地境界層
- 3.3 地中への熱輸送
- 3.4 蒸発散

4 土壌水

- 4.1 土壌水の定義と分類
- 4.2 間隙率と含水量
- 4.3 水理ポテンシャル
- 4.4 毛管上昇
- 4.5 水分特性曲線

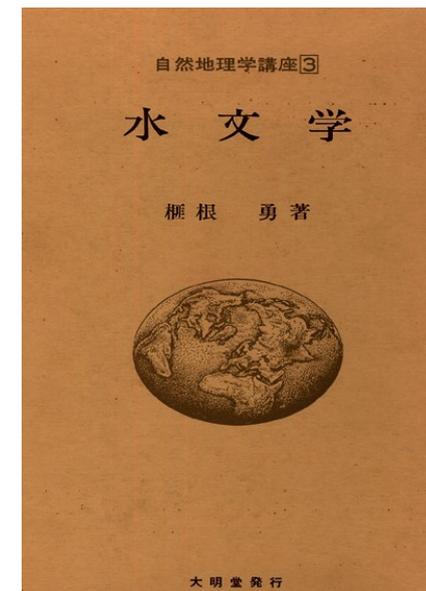
- 4.6 不飽和透水係数
- 4.6 蒸発とゼロフラックス面
- 4.8 浸透
- 4.9 土壌水の運動方程式

5 地下水

- 5.1 地下水のあり方
- 5.2 流体ポテンシャル
- 5.3 ダルシーの法則とその適用限界
- 5.4 地下水面の変動と比産出率
- 5.5 地下水の運動方程式
- 5.6 帯水層試験
- 5.7 地下水流動系
- 5.8 地表水と地下水の交流

6 地表水

- 6.1 地表水の分類
- 6.2 開水路の流れ
- 6.3 河川の流量と流速
- 6.4 水流発生機構
- 6.5 流出モデル

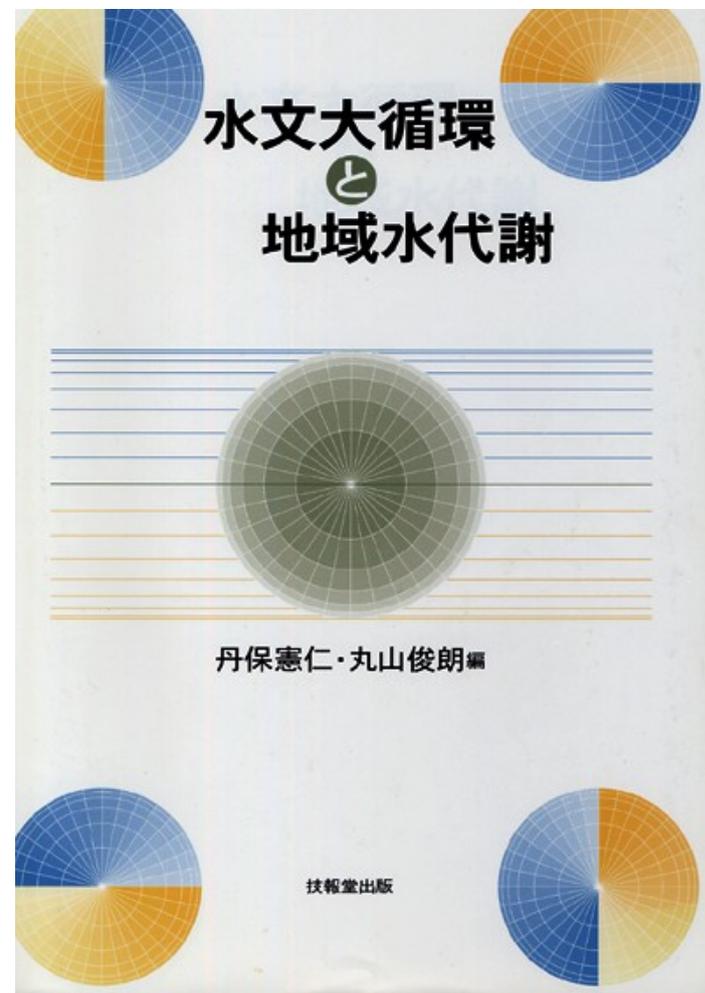


水文大循環と地域水代謝 丹保憲仁・丸山俊朗編(2003)

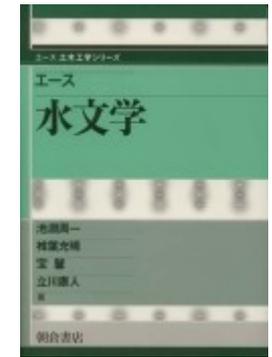
- 第1章 水資源と都市・地域の水代謝システム
- 第2章 水の大循環サイクルと水資源
- 第3章 森林と水資源
- 第4章 川と水資源
- 第5章 地下水と水資源
- 第6章 農業と水
- 第7章 都市・地域の水環境
- 第8章 都市活動と水資源
- 第9章 沿岸域と水利用

Appendix 水資源問題に関する世界の動向

- A.1 はじめに
- A.2 地球の水危機の実態
- A.3 国際水文学計画(IHP)
- A.4 AP-FRIEND
- A.5 GAME
- A.6 第10回世界水会議
- A.7 WWC
- A.8 SWSとGWP
- A.9 WWCとGWP
- A.10 WCD
- A.11 世界水フォーラム 第3回は日本開催
- A.12 IWA



土木の心とは



1. 水文学とは

- 1.1 水文学の定義
- 1.2 多様な水文学
- 1.3 流域水循環を扱う水文学

2. 地球上の水の分布と放射

- 2.1 地球上の水の量
- 2.2 地球上の水の循環
- 2.3 地球大気鉛直プロファイル
- 2.4 日射と大気放射
- 2.5 衛星リモートセンシングによる地球観測
- 2.6 水・熱循環の結合

3. 降水

- 3.1 水文学における降水過程の役割
- 3.2 大気現象のスケール
- 3.3 降水の分類
- 3.4 降水のメカニズム
- 3.5 降水の数値モデル
- 3.6 降水の観測

4. 蒸発散

- 4.1 蒸発散を支配する物理的要因
- 4.2 地表面における熱収支
- 4.3 地表面付近の風と乱流拡散係数を用いた地表面フラックスの表現
- 4.4 蒸発散量の測定法
- 4.5 蒸発散量の推定法
- 4.6 代表的な地表面における蒸発散特性

5. 積雪・融雪

- 5.1 積雪・融雪と河川流出
- 5.2 積雪観測
- 5.3 積雪の高度分布
- 5.4 積雪面における熱収支と融雪
- 5.5 積算気温による融雪量の推定
- 5.6 積雪・融雪・流出モデルによる融雪量の推定

6. 降水遮断・浸透

- 6.1 降水遮断
- 6.2 浸透
- 6.3 水循環のモデル化から見た降水遮断・浸透の過程

7. 斜面流出

- 7.1 流出過程
- 7.2 水文流出系におけるキネマティックウェーブ理論
- 7.3 山腹斜面系のモデル化

8. 河道網構造と河道流

- 8.1 河道網構造
- 8.2 河道流れの数値モデル

9. 流出モデル

- 9.1 流出モデルの目的
- 9.2 分布型流出モデルの構成
- 9.3 陸面水文過程モデル
- 9.4 大河川流域への展開
- 9.5 流出モデルの課題と今後の展開

10. 降雨と洪水のリアルタイム予測

- 10.1 降雨予測の方法
- 10.2 洪水流出のリアルタイム予測の方法
- 10.3 河川情報システムと洪水予報

11. 水文学の確率統計解析

- 11.1 河川計画と確率論的アプローチ
- 11.2 水文学とその確率評価
- 11.3 水文頻度解析の手順
- 11.4 確率水文学の不確定性の定量化

付録A 準線形偏微分方程式の解法

付録B 強制復元法による地中温度の計算

付録C 代表的な流出モデル

水文学 Hydrology An Introduction Wilfried Brutsaert(2005)

1章 はじめに

I部 大気中の水

2章 大気中の水、下部大気の流体力学

3章 降水

4章 蒸発

II部 地表面の水

5章 地表面上の水、自由水面流れの流体力学

6章 地表流

7章 河流追跡

III部 地表面下の水

8章 地中の水、多孔体中の流体力学

9章 浸透および関連する不飽和流

10章 地下水流出量と基底流量

IV部 降水への応答としての流域スケールの水の流れ

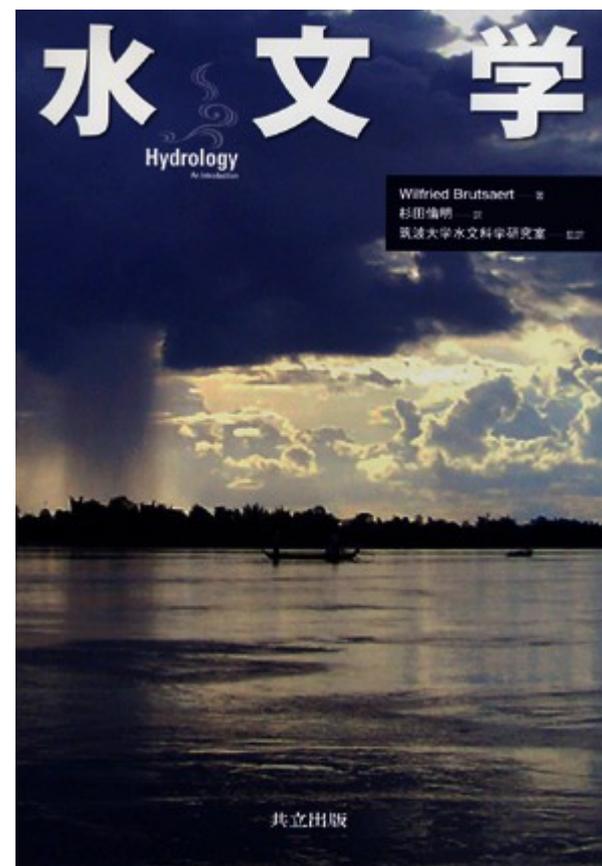
11章 水流発生機構、メカニズムとパラメタリゼーション

12章 集水域スケールでの河川流の応答

13章 水文学における頻度解析の基本

14章 おわりに、水循環の認識の歴史

付録 役に立つ数学概念



**Physically-based
Process-oriented**

水文科学

杉田倫明・田中 正 編著

共立出版 2009年2月

第1章 水文科学とは

- 1.1 水循環の概念
- 1.2 水文学から水文科学へ
- 1.3 水循環システム
- 1.4 地球上の水

第2章 エネルギーと水循環

- 2.1 地球のエネルギー収支
- 2.2 地表面でのエネルギーと水の分配
- 2.3 大気中の水蒸気

第3章 降水

- 3.1 雲と降水の発生プロセス
- 3.2 降水の発生・維持システム
- 3.3 地球規模の降水量変動機構
- 3.4 降水量の測定と面的評価

第4章 蒸発散

- 4.1 蒸発散のメカニズム
- 4.2 接地層内の気温・比湿のプロファイル
- 4.3 蒸発散量の観測法
- 4.4 蒸発散の測定法・モデル

第5章 地表面を介した降雨の分配

- 5.1 植生による降雨の分配
- 5.2 地表面に達した降雨の分配

第6章 地中水

- 6.1 地中水の区分とそのあり方
- 6.2 土壌水
- 6.3 地下水

第7章 地表面の循環

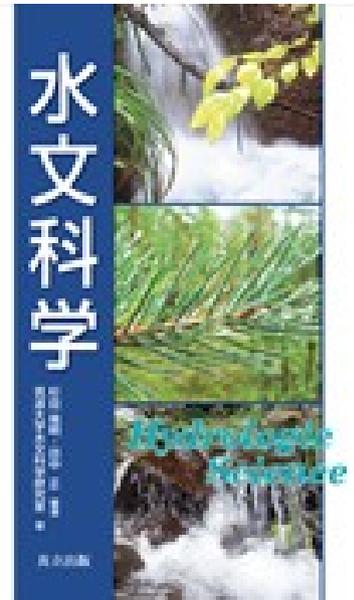
- 7.1 水流発生機構
- 7.2 河川の流出特性
- 7.3 湖沼の水収支と循環

第8章 水・物質循環

- 8.1 水質の形成・進化
- 8.2 水質汚染機構
- 8.3 水文トレーサー

第9章 流域を基本単位とした水循環

- 9.1 流域と水循環・環境
- 9.2 植生と水循環・環境：森林の役割
- 9.3 土地利用と水循環・環境：水田の影響
- 9.4 都市と水循環：水循環と水質の保全
- 9.5 地球温暖化と水循環
- 9.6 流域水循環システムの解明
— 統合的流域管理に向けて —



**Physically-based
Process-oriented**

水文学の対象

- ・降水研究
- ・雪氷
- ・蒸発散
- ・地表水
- ・土壌水
- ・地下水
- ・侵食と堆積
- ・水質
- ・水資源システムと
その相互作用
(以上AGU,1975)
- ・森林
- ・農地
- ・都市
- ・山地
- ・その他

空間スケール

- ・グローバル
- ・流域
- ・プロット



技術

- ・リモートセンシング
- ・モデル
- ・レーダー
- ・その他計測技術

水文・水資源学会2008年度学術大会のセッション名

- ・広域水循環
- ・リモートセンシング
- ・降水・気象
- ・水資源・流域水管理
- ・PUB・流出
- ・森林水文・雪氷水文
- ・蒸発散・土壌水分輸送
- ・水質水文
- ・気候変動・地球水循環

歴史の中の水文学－地域、流域からグローバルへ

1972 国連人間環境会議（ストックホルム会議）
人間環境宣言

＜環境問題の重要性の認識＞

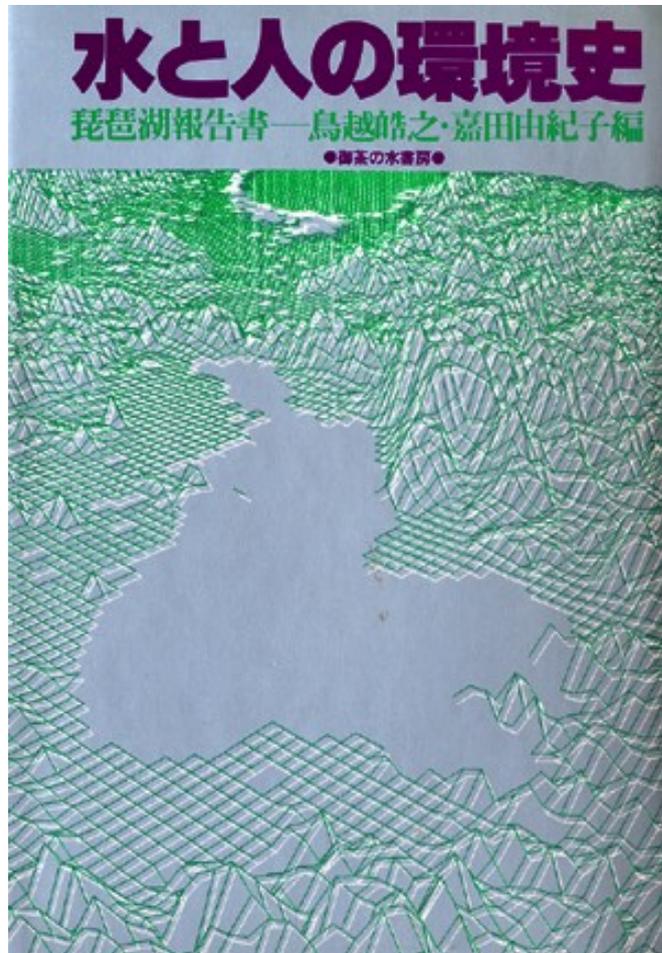
1992 リオデジャネイロ環境サミット
持続可能な開発のための行動計画
「アジェンダ21」

＜地球温暖化、生物多様性への注目＞

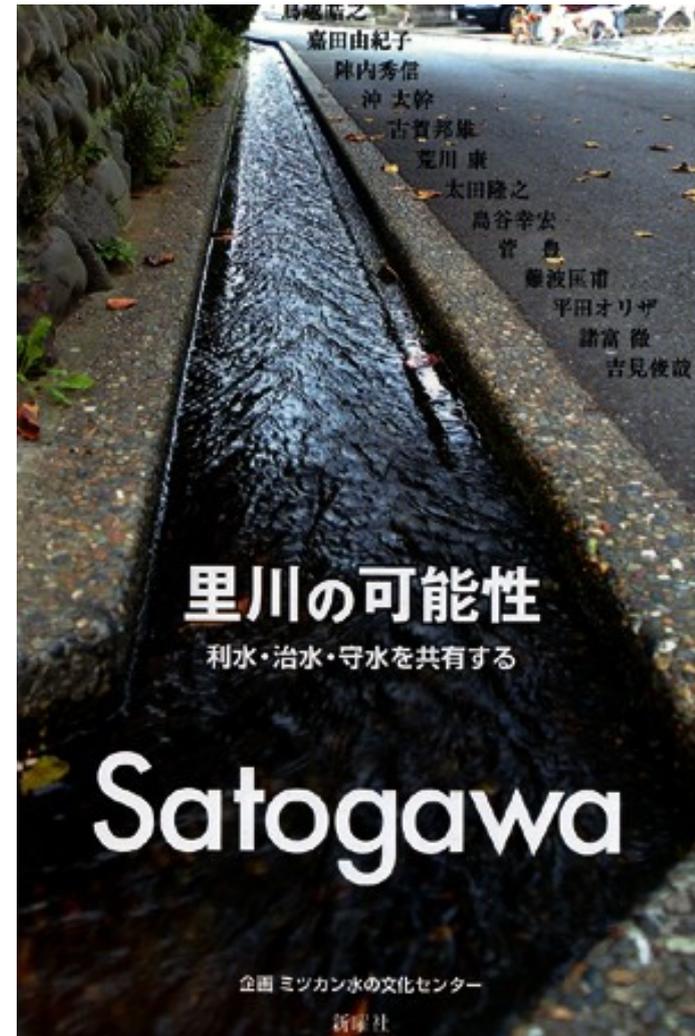
2002 ヨハネスブルク環境サミット
持続可能な開発に関する世界サミット

＜水問題への注目＞ その布石として. . .

環境社会学と水文学



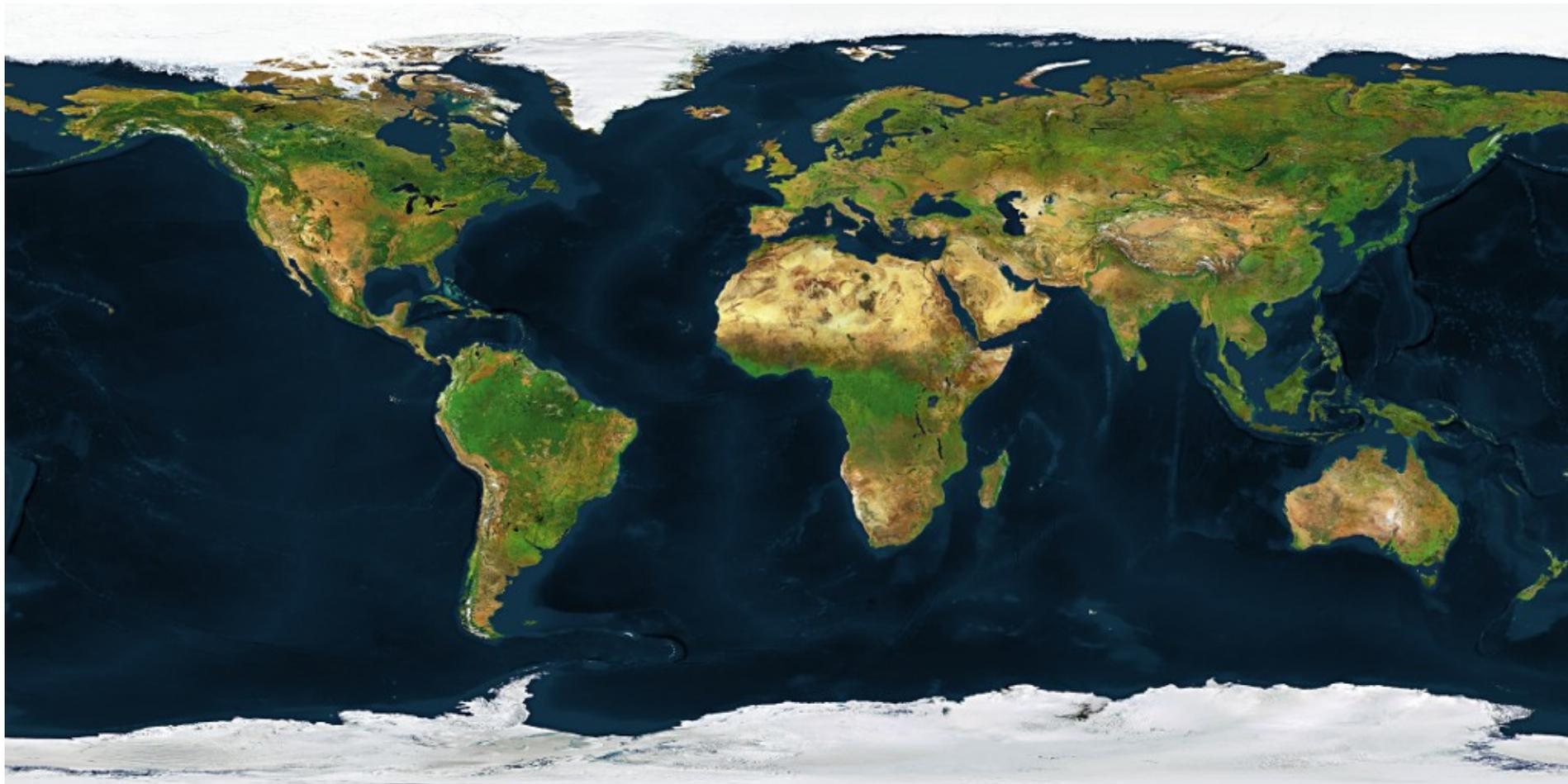
もうひとつの
水文学
水と暮らしの関わり



分離融合を実行できる精神を新しい時代の者は持ってほしいと思う

圧倒的な現実の前でサイエンティストはどう動くのか！

水の分布・循環・変動



1. 水の量

地球上の水文循環は、閉じた系 (closed system)

表4 地球上の水の財産目録(単位: km³)

	Löf (1960)	Nace (1964)	Fox (1951)	榎根(1973)	%
[塩水]					
海洋	1,307,490,000	1,320,000,000	—	1,349,929,000	97.50
塩水湖	—	104,000 ¹⁾	—	94,000	0.007
[淡水]					
水	30,427,500	29,158,500	—	24,230,000 ¹⁾	1.75
水化作用で結合した水	414	—	400	—	
淡水湖	124,600	125,000	(125,000)	125,000	0.009
川	1,150	1,250	—	1,200	0.0001
土壌水	25,160	66,650 ²⁾	6,000 ¹⁾	25,000	0.002
地下水 { 浅層	4,500,000 ¹⁾	4,165,500 ³⁾	4,515,000 ²⁾	4,500,000	} 0.72
地下水 { 深層	5,630,000 ²⁾	4,165,500	5,619,000 ³⁾	5,600,000	
[水蒸気]					
大気中の水	14,200	12,900	—	12,600	0.001
[生物]					
動物	} 1,128 ³⁾	—	—	600	} 0.0001
植物		—	—	600	
総計	—	—	—	1,384,518,000	100
備考	1) 深さ760 m まで 2) 760~3,800 m まで 3) van Hylckama は植物だけで530 km と与えている	1) 内海を含む 2) 最上層の地下水を含む 3) 深さ800 m まで	1) 厚さ1 m, 間隙率0.2, 全陸地の1/5 2) 深さ760 m まで, 間隙率0.04 3) 760~3,750 m まで, 間隙率0.01	1) 水の体積に換算した値, Shumskiy らによる	水の総量に対する%

● 海洋の水は全体の97.5%

● 淡水は1.75%

● 河川水は0.0001%
(淡水の0.0057%)

● 地下水は0.72%

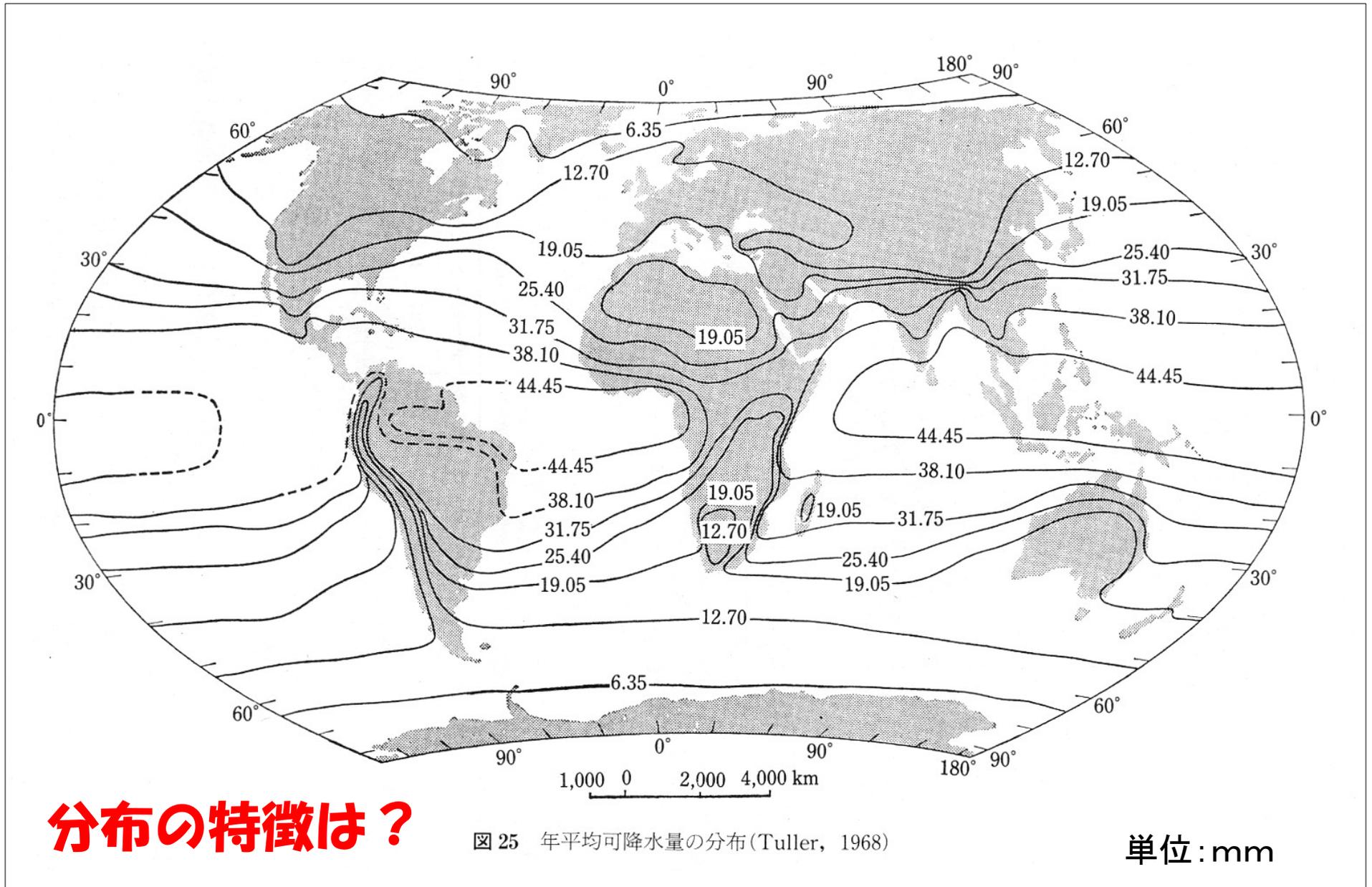
● 大気中の水は0.001%

我々が資源として使っているのはどの水か？

これらの数字はストックであり、フローではないことに注意

● ストック
● フロー

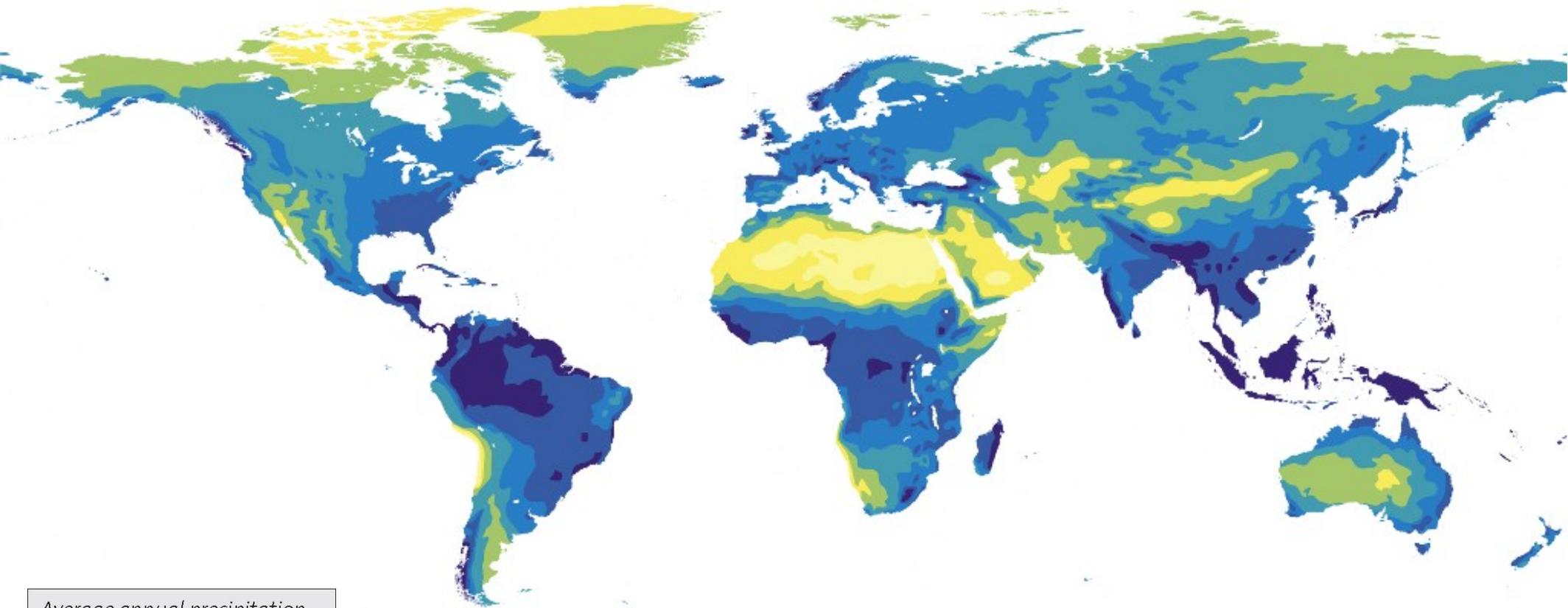
大気中の水 可降水量の全球分布



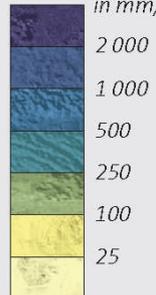
(榎根勇著「水と気象」、朝倉書店)

年平均降水量の分布

君はどんな特徴を
読み取るか



Average annual precipitation
in mm/year (30-year mean)

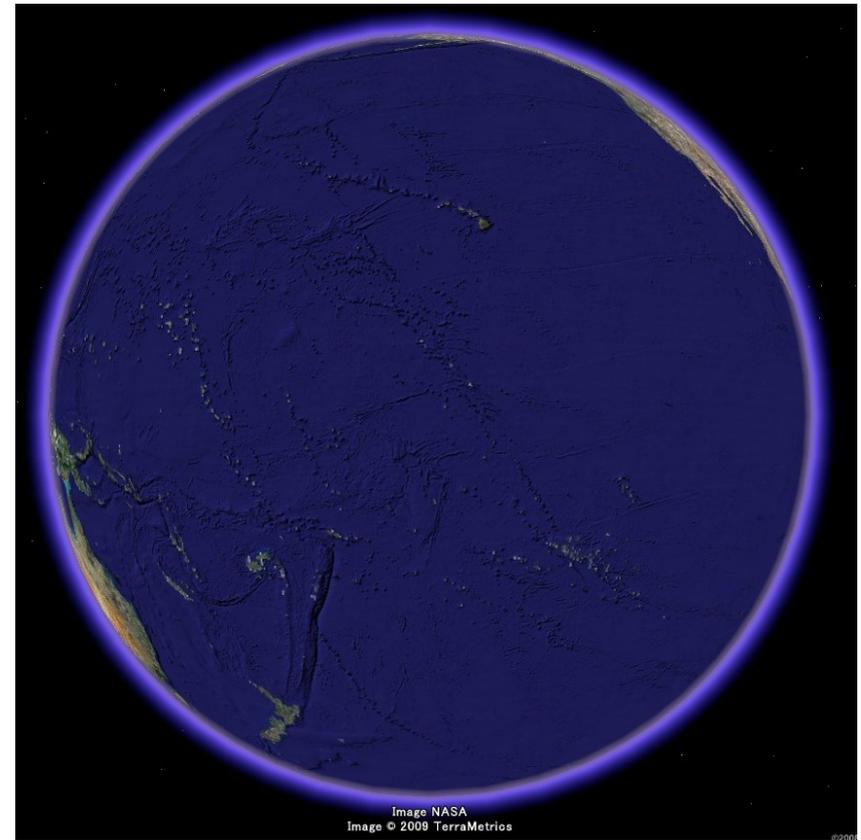


降水量は地球上で偏在している。その特徴が地域性を
形成している。

(ESA School Atlas, Geography from Space)

海水

- ・全海洋の総面積： $362 \times 10^8 \text{km}^2$
- ・地球の表面積の70.97%
- ・全海洋の平均水深：3729m



陸半球と水半球。Google Earth で確認してみよう。

雪氷

表8 全地球の水の諸特性(Shumskiy ら, 1964)

	質量		分布範囲(%)	年間供給量(g・yr ⁻¹)	滞留時間(yr)
	(g)	(%)			
氷河	2.398×10 ²²	98.95	陸地の 10.9	2.5×10 ¹⁸	9,580
陸地の氷*	2～5×10 ²⁰	0.83	陸地の 14.1	6～7×10 ¹⁸	30～75
海水	3.483×10 ¹⁹	0.14	海洋の 7.2	3.33×10 ¹⁹	1.05
積雪	1.05×10 ¹⁹	0.04	地球の 14.2	2～3×10 ¹⁹	0.35～0.52
氷山	7.65×10 ¹⁸	0.03	海洋の 18.7	1.88×10 ¹⁸	4.07
大気中の水	1.68×10 ¹⁸	0.01	地球の 100	3.89×10 ²⁰	4×10 ⁻³
合計	2.423×10 ²²	100.00			

* 原論文には ground ice とある。

注) 最近の文献(Barry, 1985)では、この表の氷河の値の1割増の数字があがっている。

氷床を含む？
永久凍土は？



表7 地球上の氷河の面積と体積

地域	面積(km ²)			体積(%)
	Flint (1971)	Heybrock (1957)	Shumskiy (1964)	Shumskiy (1964)
北極地域	2,081,616	1,970,443		
グリーンランド	(1,726,400)	(1,726,400)	1,802,400	9.80***
その他の北極地域	(355,216)	(244,043)		
北アメリカ	76,880	59,005	217,300*	
南アメリカ	26,500	12,000	26,400	
ヨーロッパ	9,276	10,540	117,000*	
アジア	115,021	38,860	127,100*	
アフリカ	12	240	12	
太平洋地域	1,015	1,015	1,000	
南極地域	12,588,000	13,204,000	13,914,000	
南極大陸氷	(12,535,000)	(12,600,000)		89.66***
棚氷	(50,000)	(600,000)		
周辺諸島	(3,000)	(4,000)		
	14,898,320	15,296,103	16,205,212**	100.00

* 北極地域を含む。

** 原論文には 16,215,212 とある。ミスプリントか。

*** 原論文には Greenland ice sheet, Antarctic ice sheet とある。



(榎根勇著「水と気象」、朝倉書店)

地中の水

表4 地球上の水の財産目録(単位: km³)

	Löf (1960)	Nace (1964)	Fox (1951)	榎根 (1973)	%
[塩水]					
海洋	1,307,490,000	1,320,000,000	—	1,349,929,000	97.50
塩水湖	—	104,000 ¹⁾	—	94,000	0.007
[淡水]					
水	30,427,500	29,158,500	—	24,230,000 ¹⁾	1.75
水化作用で結合した水	414	—	400	—	
淡水湖	124,600	125,000	(125,000)	125,000	0.009
川	1,150	1,250	—	1,200	0.0001
土壤水	25,160	66,650 ²⁾	6,000 ¹⁾	25,000	0.002
地下水 { 浅層	4,500,000 ¹⁾	4,165,500 ³⁾	4,515,000 ²⁾	4,500,000	} 0.72
地下水 { 深層	5,630,000 ²⁾	4,165,500	5,619,000 ³⁾	5,600,000	
[水蒸気]					
大気中の水	14,200	12,900	—	12,600	0.001
[生物]					
動物	} 1,128 ³⁾	—	—	600	} 0.0001
植物		—	—	600	
総計	—	—	—	1,384,518,000	100
備考	1) 深さ760 m まで 2) 760~3,800 m まで 3) van Hylckama は植物だけで530 kmと与えている	1) 内海を含む 2) 最上層の地下水を含む 3) 深さ800 m まで	1) 厚さ1 m, 間隙率0.2, 全陸地の1/5 2) 深さ760 m まで, 間隙率0.04 3) 760~3,750 m まで, 間隙率0.01	1) 水の体積に換算した値, Shumskiy らによる	水の総量に対する%



地中水に関する一般の認識が、環境を論じる際に最も不足していると感じています

地表水

表4 地球上の水の財産目録(単位: km³)

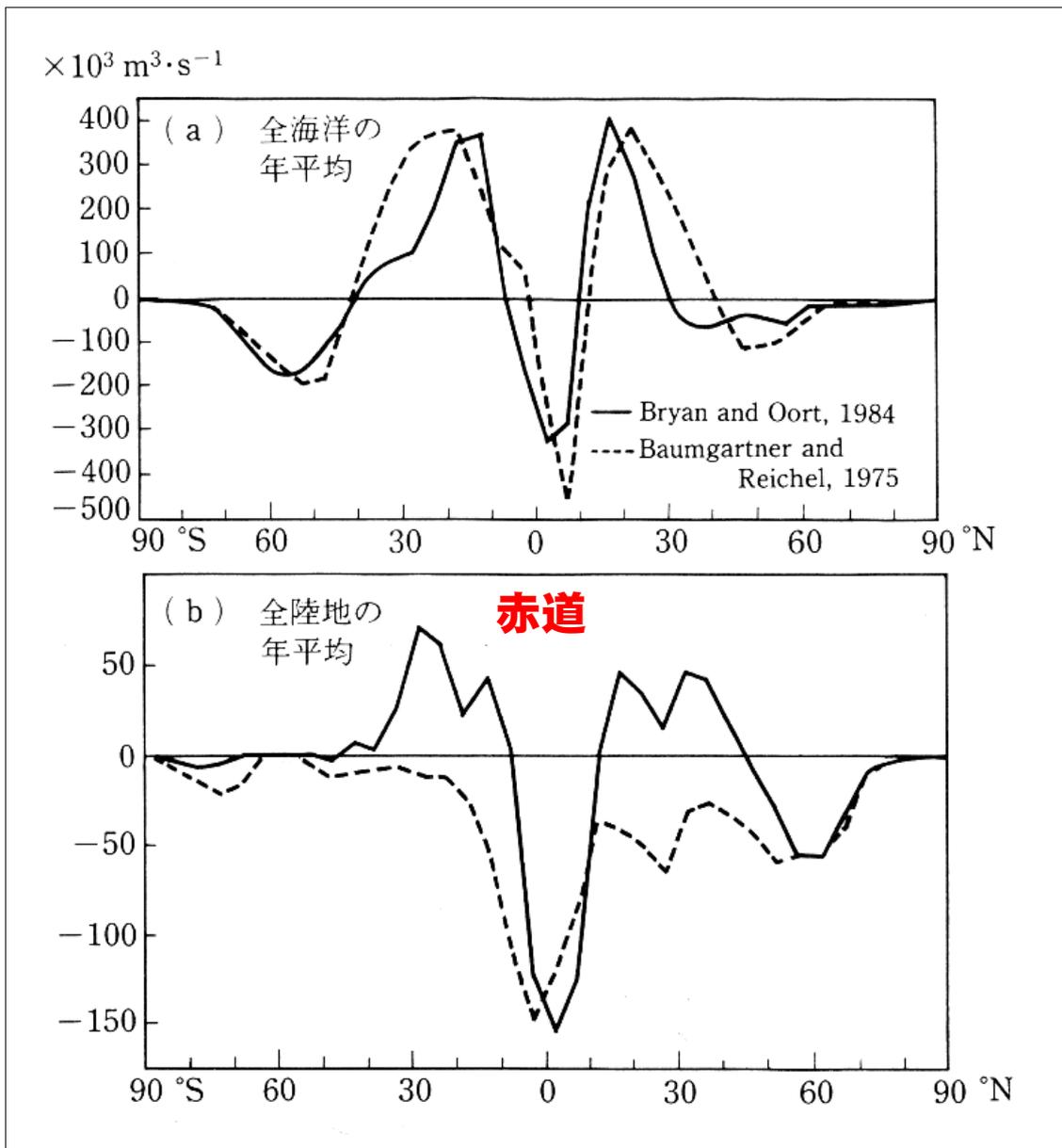
	Löf (1960)	Nace (1964)	Fox (1951)	榎根 (1973)	%
[塩水]					
海洋	1,307,490,000	1,320,000,000	—	1,349,929,000	97.50
塩水湖	—	104,000 ¹⁾	—	94,000	0.007
[淡水]					
氷	30,427,500	29,158,500	—	24,230,000 ¹⁾	1.75
水化作用で結合した水	414	—	400	—	
淡水湖	124,600	125,000	(125,000)	125,000	0.009
川	1,150	1,250	—	1,200	0.0001
土壌水	25,160	66,650 ²⁾	6,000 ¹⁾	25,000	0.002
地下水 { 浅層	4,500,000 ¹⁾	4,165,500 ³⁾	4,515,000 ²⁾	4,500,000	} 0.72
深層	5,630,000 ²⁾	4,165,500	5,619,000 ³⁾	5,600,000	
[水蒸気]					
大気中の水	14,200	12,900	—	12,600	0.001
[生物]					
動物	} 1,128 ³⁾	—	—	600	} 0.0001
植物		—	—	600	
総計	—	—	—	1,384,518,000	100
備考	1) 深さ760 m まで 2) 760~3,800 m まで 3) van Hylckama は植物だけで530 kmと与えている	1) 内海を含む 2) 最上層の地下水を含む 3) 深さ800 m まで	1) 厚さ1 m, 間隙率0.2, 全陸地の1/5 2) 深さ760 m まで, 間隙率0.04 3) 760~3,750 m まで, 間隙率0.01	1) 水の体積に換算した値, Shumskiy らによる	水の総量に対する%

フローとして捉えることができること



2. 地球上の水循環

蒸発量と降水量の差



蒸発量－降水量の緯度分布

P>Eとなる緯度帯は？

- ・10°N～10°S
- ・30～30度より極側

水が南北方向に輸送されなければならない

水を運ぶもの

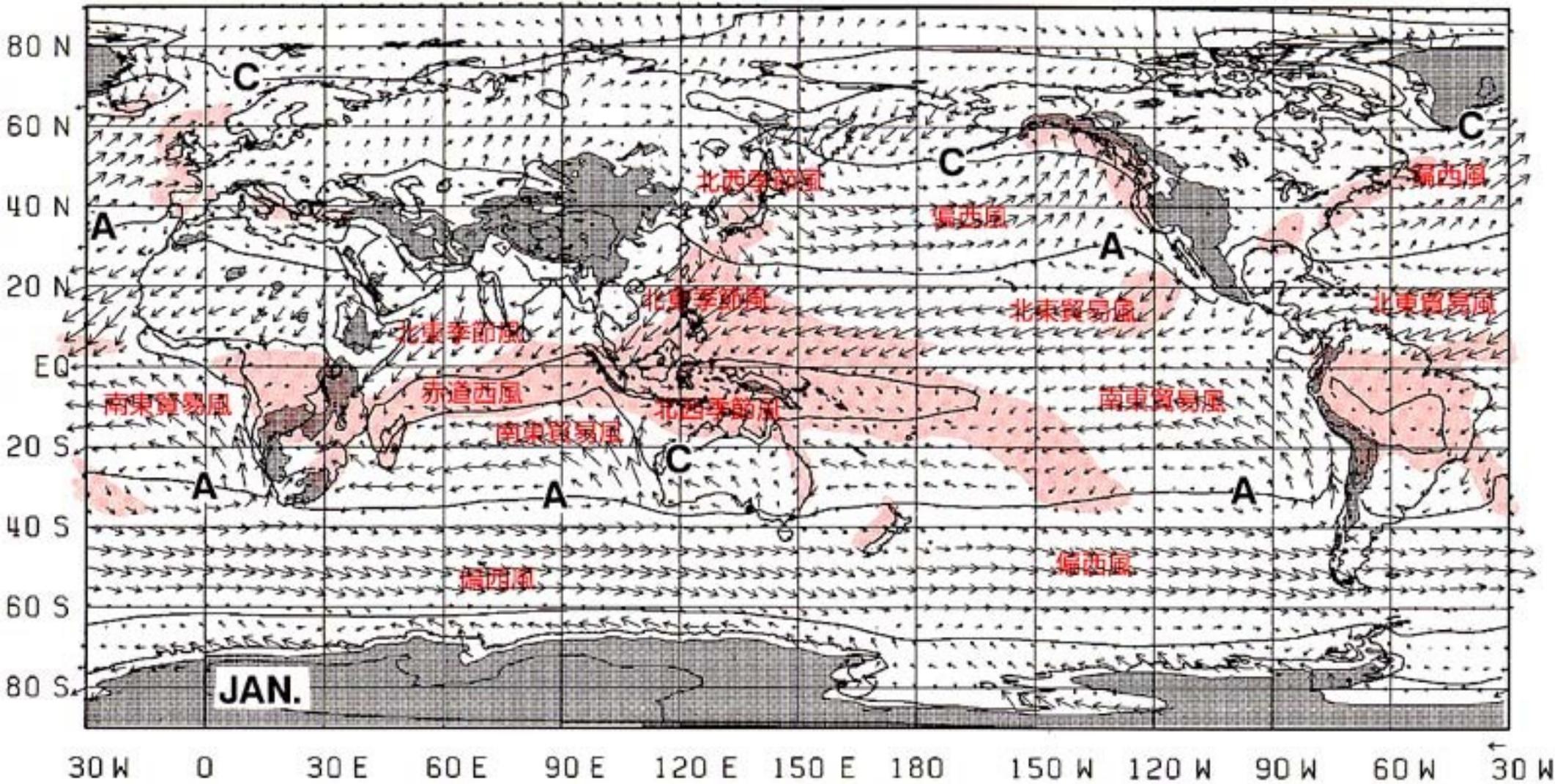
- 大気
- 海洋
- 河川



MONTHLY MEAN WIND (1000hpa)

1980-88

JANUARY

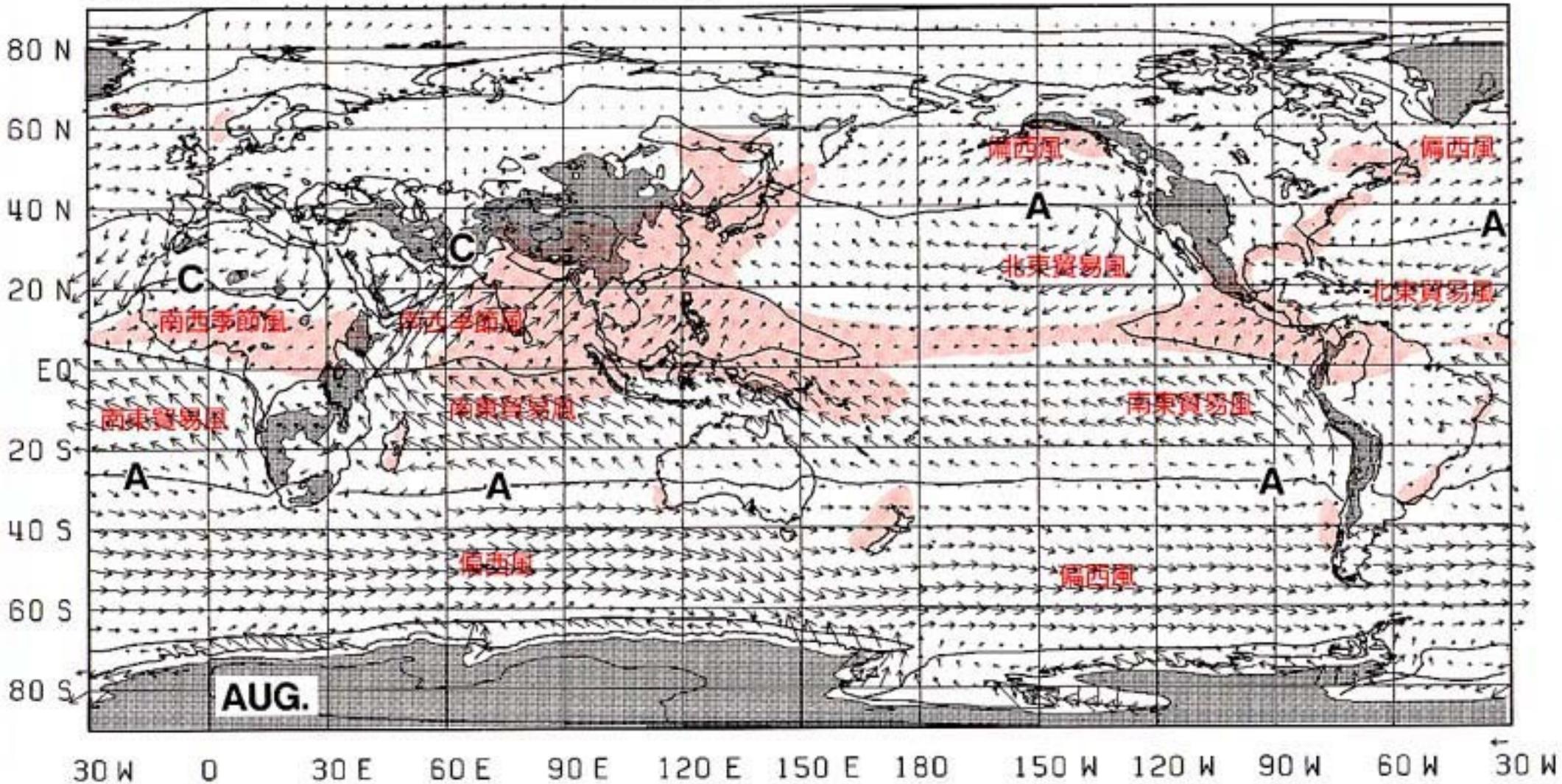


冬の風系と降水量分布（松本淳）

MONTHLY MEAN WIND (1000hPa)

1980-88

AUGUST



夏の風系と降水量分布（松本淳）

表 11 世界の大河川の流量と流域面積

順位	河 川	平均流量 ($m^3 \cdot s^{-1}$)			流域面積 ($\times 10^3 km^2$)			主流長 (km)
		Leopold (1962)	P.W.A. (1968)	Nace (1972)	Leopold (1962)	E.Britanica	理科年表	Coleman (1968)
1	Amazon	99,000	120,000	175,000	5,780	7,050	7,050	6,400
2	Congo	39,601	39,000	} 25,000	4,010	3,689	3,690	4,700
3	Yangtze	21,800	39,000		1,940	1,957	1,775	3,800
4	Bramaputra	19,800	} 25,000		935	935	} 1,730	2,900
5	Ganges	18,700			1,060	2,500		
6	Yenisei	17,400	19,600	2,590	2,598	2,592	3,800	
7	Mississippi	17,300	19,000	3,220	3,220	3,248	6,300	
8	Orinoco	17,000	14,000	880	906	944	3,500	
9	Lena	15,500	16,400	} 285,730	2,420	2,424	2,384	4,800
10	La Plata	14,900	14,800		2,300			3,200
11	Irrawady	13,600	13,600		430		430	2,000
12	Ob	12,500	12,600		2,480	2,928	2,948	4,500
13	Mekon	11,000	12,000	800		800	4,200	
14	Tocantis	11,000		910			1,600	
15	Amur	9,600	12,500	1,840	1,962	2,052	2,800	
16	Mackenzie	7,900		1,800	1,766	1,668	4,100	
17	Magdalena	7,500	15,000	240			1,500	
18	Zambezi	7,100	16,000	1,300	1,329	1,330	3,500	
19	Danube	6,200	6,400	820	817	817	2,800	
20	Niger	6,100	12,000	1,100	1,501	2,092	4,200	
2~16位までの河川の合計		247,600	260,580		27,615	—	—	—
同上(Nace, 1972)		285,730			27,485		—	

世界の主要大河川は東西方向に流れる
南北方向に流れる河川は？

どんな現象と関連
付けられるか、常に
考える習慣を

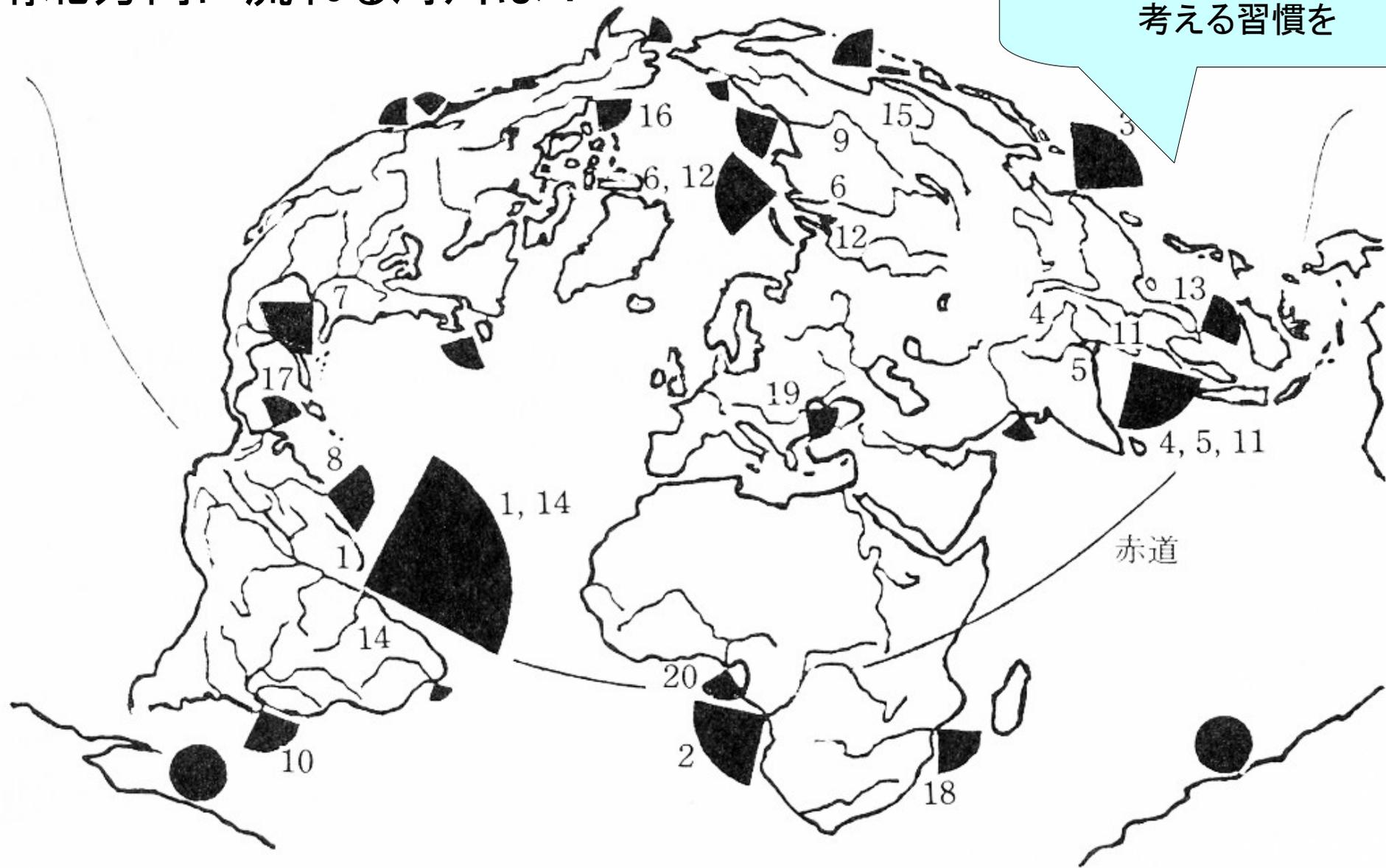


図 32 主要河川による海洋への流出(Marcinek, 1964 を修正)

扇形の面積は流出量に、丸形の面積は融氷量にそれぞれ比例する。数字は表 11 に対応。

海洋の水収支

表 12 海洋の水収支 (Budyko, 1972)

	降水 (cm・yr ⁻¹)	蒸発 (cm・yr ⁻¹)	流出 (cm・yr ⁻¹)	収支 (cm・yr ⁻¹)
大西洋	89	124	23	-12
太平洋	133	132	7	8
インド洋	117	132	8	-7
全海洋	114	126	12	0

全海洋について 降水量 + 陸地からの流出量 = 蒸発量

太平洋と大西洋の違いは？

- ・大西洋は 蒸発 > 降水 + 流出
- ・太平洋は 降水 + 流出 > 蒸発



熱塩循環と氷期の引き金

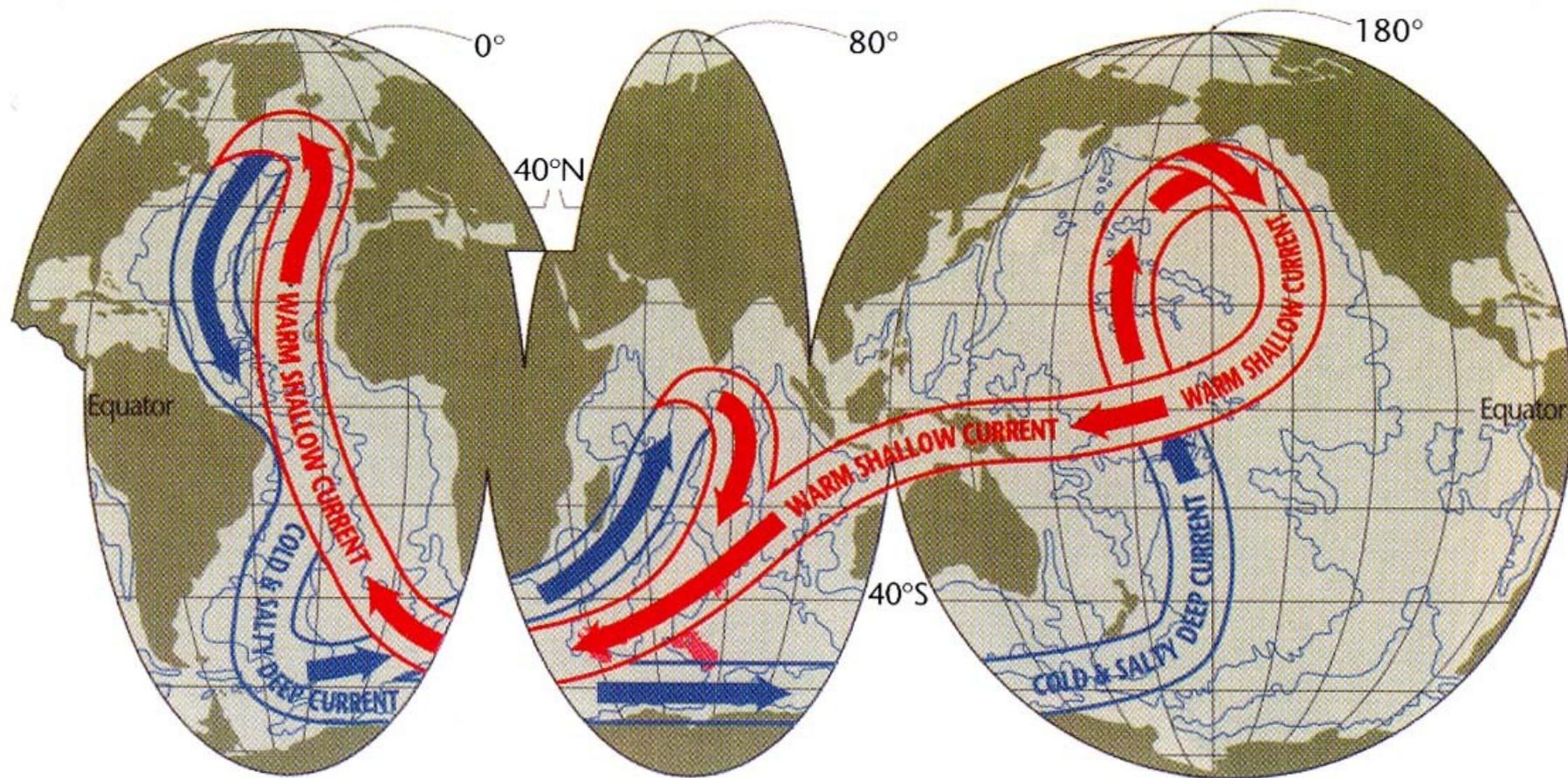


図 5 ブロッカーのコンベアベルト。海洋の深層・表層循環に伴う海水の3次元的な移動を大胆に簡略化して示したもの。Broecker (1987) の原図をもとに Schmitz (1995) が書き直した。
Warm Shallow Current : 高温浅層流, Cold & Salty Deep Current : 低温高塩深層流



調べてみよう

ヤングドライアス期の出現 ブロッカー仮説

地球全体の水収支

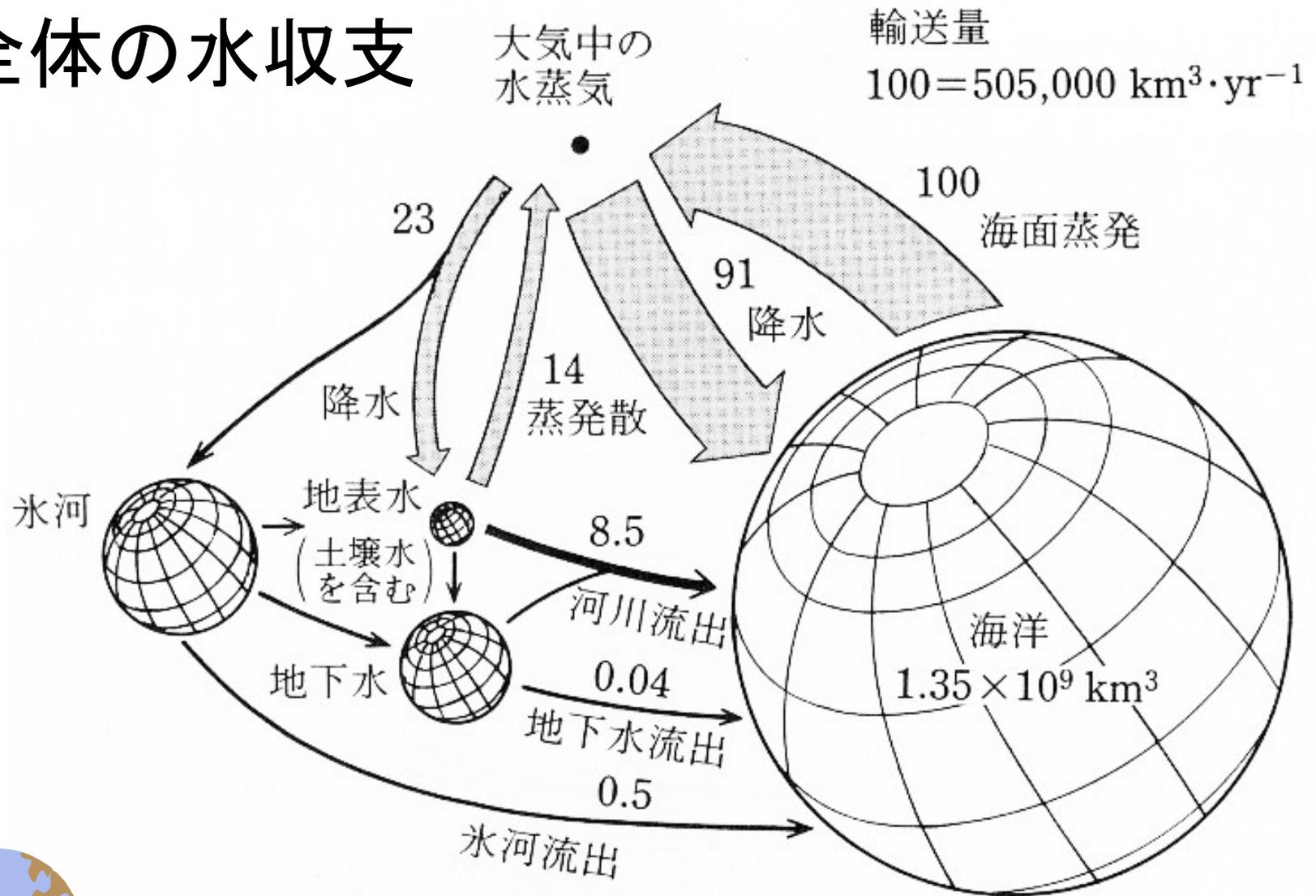


図9 地球の水文循環の模式図

球の体積は貯留量，矢印の幅は輸送量をそれぞれ表す。
地表水は土壤水を含む。

水文—大循環・中循環・小循環

水文大循環

大気中の水蒸気循環

水文中循環

流域における水循環

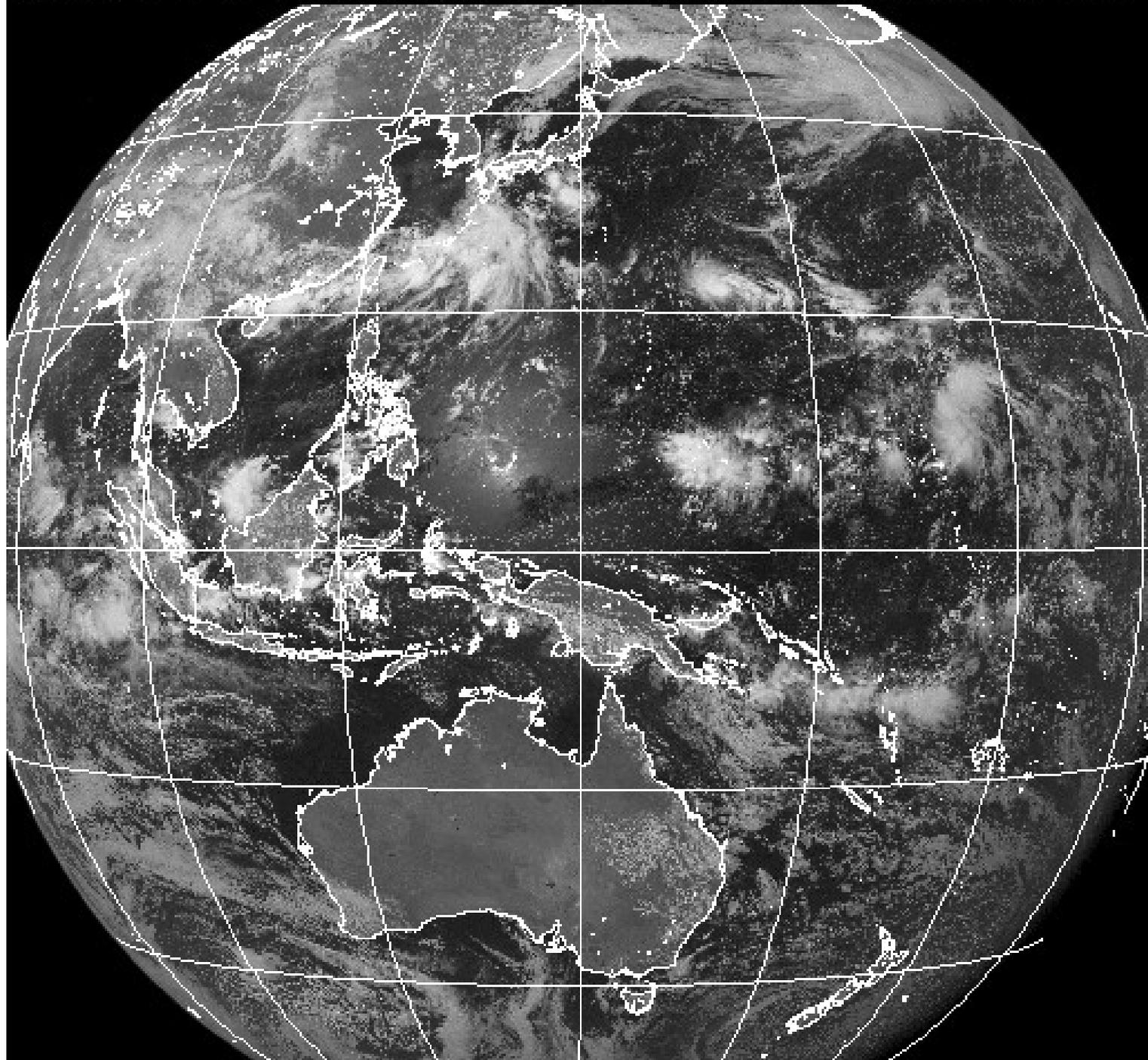
水文小循環

都市の水代謝、谷頭部における水流発生機構

水循環（水文循環）という言葉の意味は時代とともに変えられてしまった。今、ここで改めて確認しておきたい。

水文大循環のイメージ

CERES, CHIBA U. (05N, 140E) GMS-5 VIS 08/01/00 03:32:00 20.3 X 20.1 KM



水文中循環のイメージ I 流域における水循環と水利用



(池淵ほか「水文学」、朝倉書店)

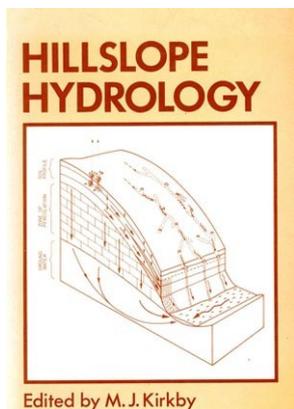
図 1.1 水の循環と水利用 (国土庁水資源白書をもとに作成)



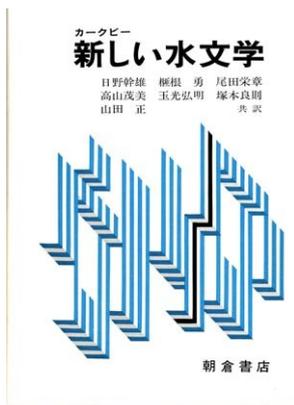
(利根川ダム統合管理事務所HP)

水文小循環のイメージ I

斜面水文学(Hillslope Hydrology)、 谷頭部における水流発生



(1978)



(1983)

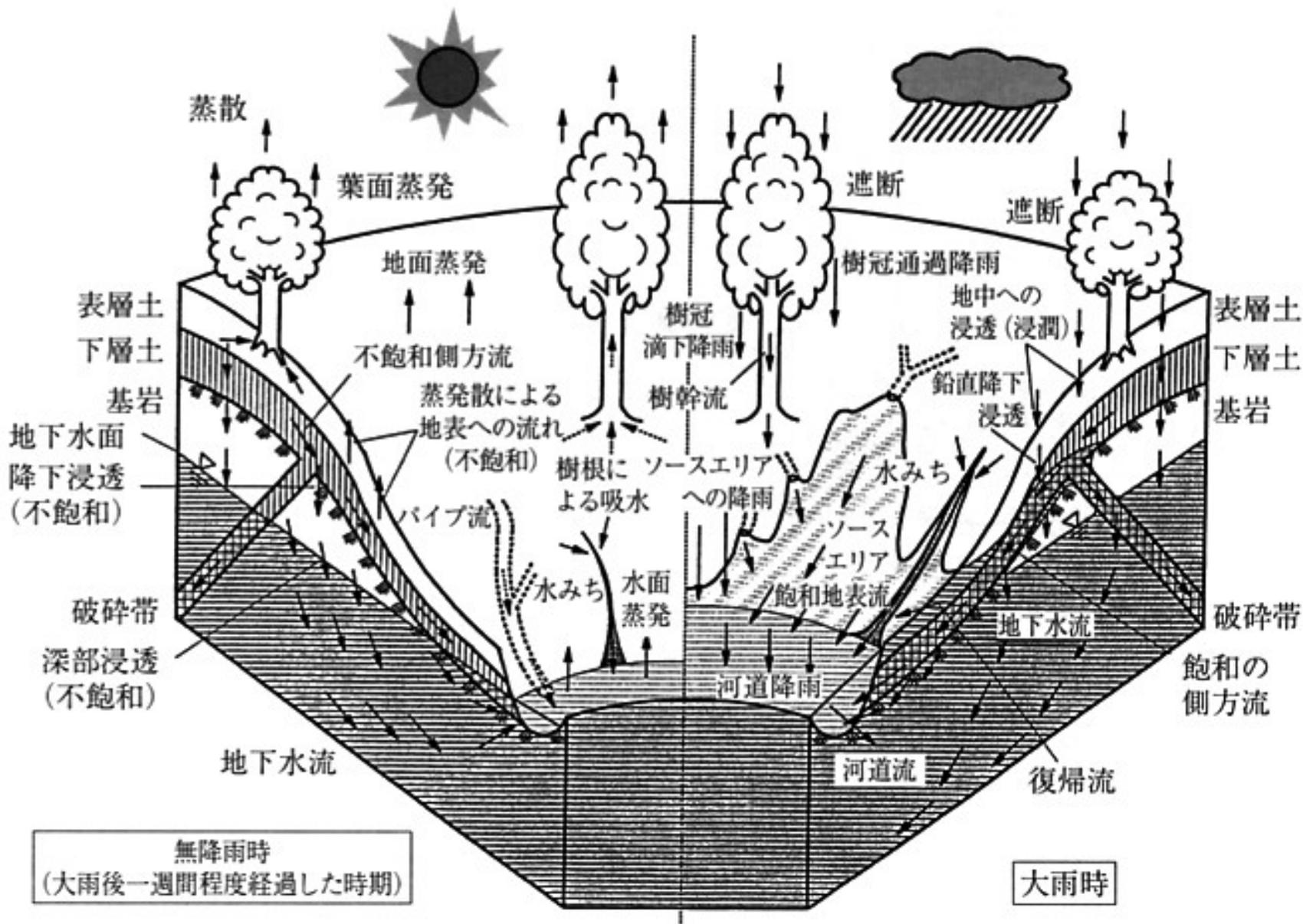


図 1.3 大雨時・無降雨時の斜面・河道系における雨水の移動¹⁶⁾

(池淵ほか「水文学」、朝倉書店)

水文小循環のイメージⅡ 都市の水代謝

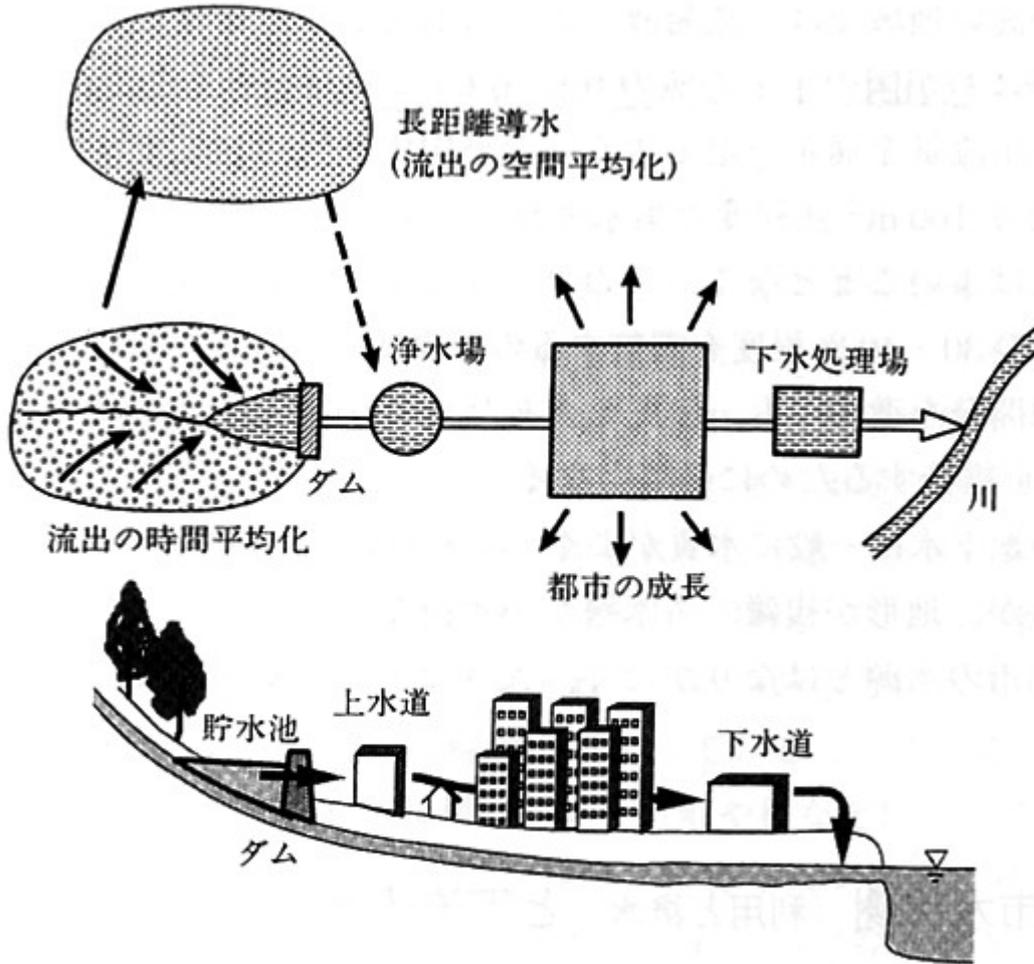


図 1.4 水文循環と都市・地域水代謝

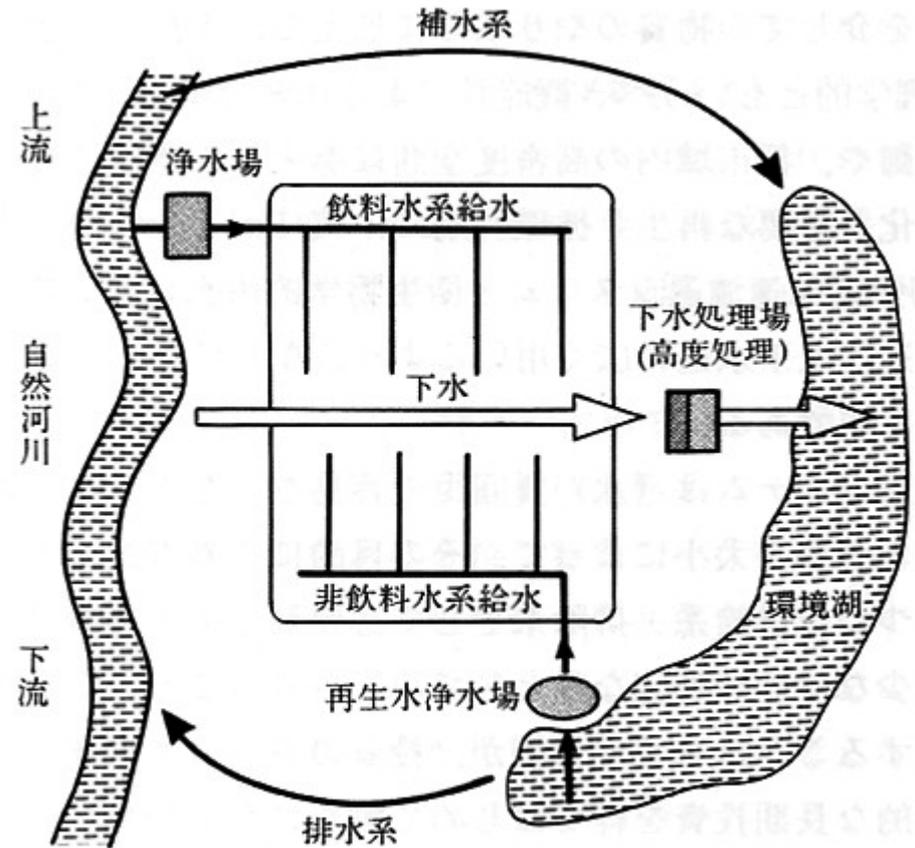


図 1.8 水環境圏 (区)

環境湖の状態ですべての都市住民は自分たちの水の使い方を見直すことができる

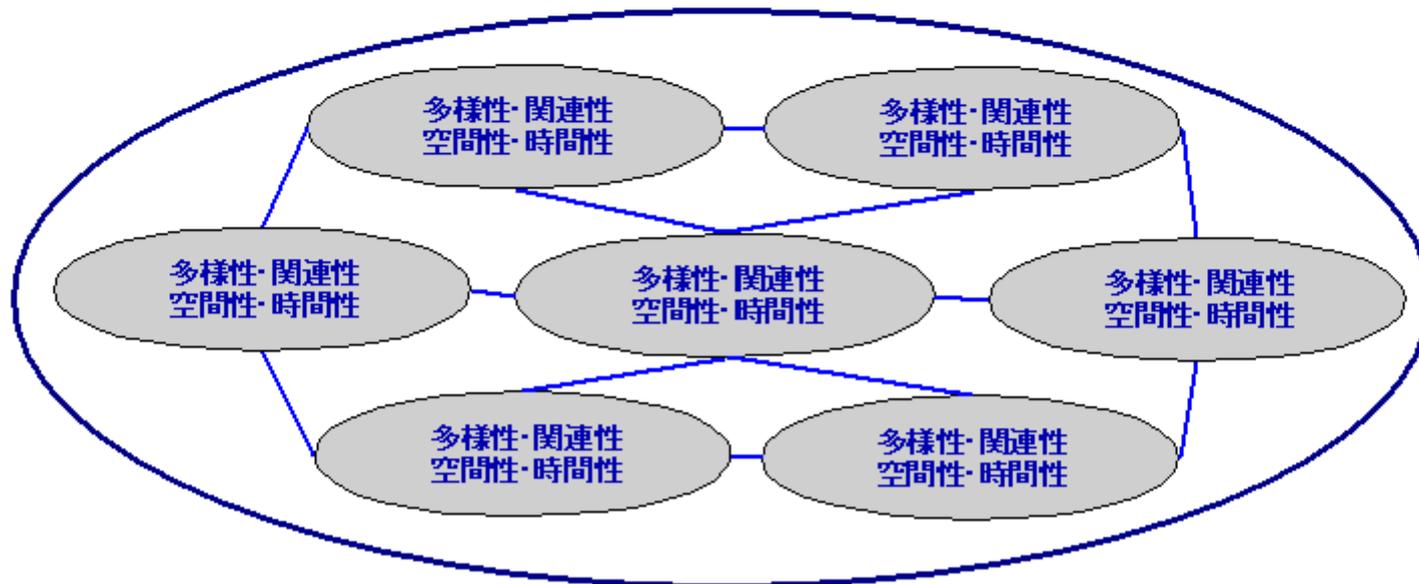
水文学は学際科学であり、環境学でもある

環境とは

- ・ 様々な要素からなる (多様性)
- ・ 要素間に関連性がある (関連性)
- ・ 空間的に分布している (空間性)
- ・ 歴史を持つ (時間性)
- ・ 認識の仕方において階層性を有する (階層性)

地域性

地域性を持つ特定地域の水文学も重要



水文学は“二つの科学”の両側面を持つ

デカルト (1596~1650) 哲学者
ニュートン (1642~1727) 自然哲学者 (natural philosopher)

科学者 (Scientist) の登場 1830年代

科学技術 技術との結びつき 20世紀初頭

スノー (1905~1980) 二つの文化論
人文的文化と科学的文化の間には超えがたい亀裂がある

クーン (1922~1996) 科学革命の構造
二つの文化の存在を科学論の立場から裏付け

ギボンズ モード論

モード1：専門分野に依拠した伝統的な知識生産

モード2：専門分野を超えた知識生産

↑
環境問題への対応、地球環境問題は地域における人と自然の関係
問題の共有ではなく、解決の共有

水文学の世界へようこそ

